

平成29年度 学校自己評価システムシート（県立三郷高等学校）

目指す学校像	きめ細かな指導により、志と思いやりの心を育み、一人一人の進路実現を目指す学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 人々が共に生きる社会における常識とルールとマナーを身につけ、志をもつ高校生を育てます。 2 コミュニケーション能力と、基礎学力を身につけた高校生を育てます。 3 就職及び進学指導を充実し、資格も身につけさせて、希望進路の実現を図ります。 4 充実した学校生活と地域連携に努め、社会で自己を生かす力を育てます。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価(2月1日現在)		
年 度 目 標					達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	○本校の特色であるきめ細かな指導により、先を見通した行動をとれる生徒が増加している。一方で、自己管理不足により遅刻や欠席を繰り返す生徒が一定数いる。基本的な生活習慣の定着と志の育成が課題である。	○時間厳守、挨拶励行等の凡事徹底 ○生徒の志の育成	①毎日登校指導と巡回指導、挨拶指導を実施する。 ②遅刻数、欠席数の推移を集計し、度数の多い生徒を個別指導する。 ③校内で生徒情報を共有し、スクールカウンセラーを積極的に活用する。	①②遅刻、欠席数の減少。(前年度比) ①登校指導中に挨拶をする生徒数の増加。(年間比) ②中退者数の減少。(前年度比) ③見守りの必要な生徒の情報共有。	① 遅刻・欠席数については横ばいである。特定生徒による欠席・遅刻を減少させることにより、改善が見込まれる。 ② 学年毎に放課後や朝学習など個別指導を実施することができた。 ③ 生徒相談委員会を中心に、見守りを必要とする生徒の情報共有し、必要に応じてスクールカウンセラーによる面談や助言を行った。	B	社会に通用する基本的な生活習慣の定着を目指した指導を実践する。そのためには、家庭と学校双方向からの連携を密にし、生徒情報の共有を図る。挨拶の徹底と整容指導による身だしなみの徹底を図る。 意図的に、生徒が自主的に活動する場面をつくり、生徒自らが行動を起こす仕組みをつくる。将来、社会に出た後、自分の考えがしっかり言える意志とプレゼン能力を育成する。
2	○自己表現力が未熟で、他者とのコミュニケーションに支障のある生徒が一定数いる。基礎学力を定着させ、コミュニケーションスキルを向上させることが課題である。	○基礎学力の定着 ○集団の一員であることの自覚	①国語・英語・数学の学び直しプログラムを実施する。 ②校内外の公開授業に積極的に参加し、成果を共有する。 ③生徒による授業評価アンケートを実施する。	①成績優良者数の増加と成績不振者の減少。(前年度比) ②公開授業参加者数と校内での成果共有の状況。 ③生徒アンケート結果による授業満足度。	① 継続的な学び直しプログラムの実施により、2学期の時点で成績優秀者が以下のように増加した。1年生(25名→41名)、2年生(27名→37名)、3年生(25名→48名)対前年比。成績不振者も3学年合計29名→24名と減少。 ② 他校の公開授業に5名の教員が参加するとともに、成果を共有することができた。 ③ 生徒アンケートの結果は昨年度に比べ良好である。	A	国語・英語・数学の実施しているマナトレによる学習などの学び直しをさらに重視して行うと同時に、教員の授業力向上にも力を入れる。その方策の一つとして、教員に対して、他校実施の公開授業や研修会等に積極的に参加させる。 コミュニケーション能力の向上につながる基礎学力の定着を意識しながらも、学力上位層の学力向上のための指導を工夫する研修や行事を企画していく。 文化祭や体育祭といった学校行事においては、常に三郷高校の生徒の一員であるという自覚を持たせ、協力する姿勢を発揮させる。
3	○きめ細かい進路指導を行っているものの、自らの生き方を考察できない生徒が一定数いる。キャリア教育を充実させ、希望進路を実現させることが課題である。	○自己理解の促進 ○就職指導・進学指導の工夫改善	①「進路ノート」「進路の手引き」を活用した、3年間を見通した進路指導計画を確立する。 ②担任による二者面談、三者面談を充実させる。 ③学校間ネットワーク会議を活用した「進路指導」の取組を行う。	①「進路ノート」「進路の手引き」の活用と効果の検証。 ②大学・短大・専門学校進学希望者の希望進路実現。 ③就職希望者の第1希望割合増。 ④学校間ネットワーク会議における「進路指導」の取組状況。	① 「進路ノート」「進路の手引き」を利用した3カ年の計画的な進路指導が定着した。 ② 担任、就職支援アドバイザー等による面談や面接練習による効果として、進学希望者の大学(97%)、短大(100%)、専門学校(91%)を実現。就職希望者の第1希望先決定(84%)を達成。 ③ ネットワーク会議において、積極的に情報収集し、進路指導に役立てることができた。	A	進路指導部のイニシアチブと3学年の協力体制により、ここ数年好結果が続いている。生徒本人の進路意識を高めることにより、さらなる結果が期待されることである。 スタディサプリを全学年で導入し、教科指導に有効活用する。就職面では、地元志向の生徒が多い現状であるが、適性進路の面からも都内からの求人積極的に求める。進学面では、校内実施の大学・看護等向け模試をさらに充実させる。
4	○保護者のPTA活動等への参加は、徐々に増加している。今後は、PTA活動のさらなる活性化と地域との連携の中で生徒を育成することが課題である。	○PTA活動の活性化 ○地域連携の推進	①PTA・後援会総会において、本校の取組を説明する。 ②PTA専門部主催の事業をタイムリーに、効果的に実施する。 ③積極的なPRにより、保護者の体育祭や文化祭等への参加を進める。	①保護者の本校教育実践に対する理解の状況。 ②PTA各事業への参加者数。(前年度比) ③体育祭や文化祭等への保護者参加者数。(前年度比)	① PTA・後援会理事会において、年を追うごとに活発に意見交換がされている。 ② PTA総会や理事会等への参加者が述べ429名(昨年度357名)の2割増加。PTA活動が年々活性化している。 ③ 体育祭保護者参加113名(昨年度72名)の6割増加、文化祭保護者参加84名(昨年度82名)。	B	年を追うごとに、PTA・後援会活動が活発になってきている。次年度においても、さらにPTA(家庭)・後援会と学校が連携を深め、風通しのよい組織運営を進める。 ホームページの中で、部活動に関する更新に力を入れた。いつでも学校公開ができる環境づくりをさらに進めていくことで地域に根差した学校を目指す。

学校関係者評価	実施日 平成30年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の登校指導が定着している。朝の生徒に対する声掛けは、効果がある。今後も継続してほしい。 ・欠席や遅刻が減少していることは、すばらしい。いろいろな行事の中にたくさんの仕掛けがあることが窺える。 ・生徒にとって、来たい学校になっている。今後とも、生徒の活躍場面を増やしてほしい。 ・国語、数学、英語の三教科においては、学び直しに力を入れていることが十分わかった。 ・授業中に生徒に対してやる気を起こさせる言葉掛けを行なっていることがわかった。 ・先生方が、他校の公開授業にただ参加するだけではなく、情報を共有していることは良い。 ・学習方法を指導して、家庭学習時間を確保させてほしい。 ・進学・就職に対する実績については、学校が頑張っている様子がわかった。 ・マナトレやスタディサプリを学年進行で導入し、学び直しによる基礎学力の定着を図っていることがわかった。今後も継続してほしい。 ・PTA・後援会理事会への出席率の伸び具合からも、保護者の多くが、学校に関心があり、良好な関係にあるといえると思う。 ・地域ボランティアへの参加や「ニュースレター」の配布だけではなく、もっと積極的に情報発信をしていくことも大切である。 ・中学校への出前授業が、中学生へのPRになっている。